

泉区ボランティアネットワーク

No.24

通信

■この人に会いたい<9>

泉区社会福祉協議会事務局長

とおる
富井 亨さん

ことし4月、神奈川県社協（事務局長）から赴任されてきた事務局長富井さん。泉区は初めての土地で三ヶ月半が過ぎた。「何か不便でも感じているのでは」。ところがこの広い泉区を精力的に地域と交流。その土地、土地で出会った人達と交換した名刺がおよそ300枚。それがA4版3枚に「何時、どこで、なんの時に会った」とか細かくリストアップされている。これだけ枚数が多いと、ただ日付けと場所だけでは「思い出せないことがあるので」。

几帳面もさることながら、事務能力に優れた人である。7月2日、区社協だより「泉」の初会合の時、編集委員が発言した意見およそ30項目が黒板に書きだされた。集約する段階ですっきりと立ち上がった富井さんが理解しやすいように分類別に整理してくれた時を感じていた。

「この人に会いたい」で7人とインタビューしてきたが、今までにないタイプである。出身地は長野県湯田中温泉。昭和31年4月、ここで生まれ、唱歌「故郷」の舞台上で育つ。「兔追いかの山 小鮎釣りし かの川」。唱歌では「人気高い」歌である。（大正3年の作詞だが、長らく作詞者作曲者が不明だった。昭和40年代になって高野辰之が作詞、岡野貞一が作曲ということが分かった。高野氏は当地の出身で当時有名な作詞家だった。）

昭和39年9月、神奈川県藤沢市に転居。昭和50年、地元高校を卒業。大学では経済を専攻。卒業後一時、司法書士事務所に就職。昭和57年10月、横浜市社協（桜木町）入社。12月、同総務部企画振興課に異動。平成元年4月、港南区社協へ。同9年、市社協地域福祉課課長、同13年、総務部経理課長。同21年4月、地域活動部長に昇任。市社協在籍の間に南区、保土ヶ谷区、神奈川区の社協で事務局次長、局長など歴任する。

平成30年3月、市社協を退職。同4月、市社協再雇用、事務局長として神奈川県社協へ。今年（令和元年）4月に泉区社協に赴任。26歳で社会福祉の世界に入って約37年間、その輝かしい経歴と実践を、今度は泉区に活動の場を広げる。区社協には常勤、非常勤含めて現在、約27人いる。「一人ひとりが重要なポストを分担、活動している。でも社協の仕事は全員でお互いカバーし、一つになって地域のニーズにこたえていくことが大切」と、富井さん。

「趣味はなんですか」。すかさず！「アウトドアです」。山登り、ゴルフ、あとはバーベキューですかね。富井さんは藤沢から通勤されている。4人家族で二人のお子さんはいずれも立派な社会人に。したがって毎日の活動は社協一直線。朝夕、通勤で見る泉区の景色は緑が多く目を楽しませてくれる。「特に夕方の富士山が美しく、きれいですね。それと人情の温かさを感じています」。どうやら泉区に好感を持ってきているようだ。（宮田貞夫）



入会受付中！泉区ボランティアネットワーク

団体及び個人の参加を常時募集しています。一つのグループ、個人でだけでは取り組めないことも、皆が集まることによって解決することもあります。同じ目的を持った人たちでの情報交換や別の行動をしているグループ同士の交流する場があります。いろいろな刺激を受けて活動のエッセンスにしてみませんか？

申込は 泉区ボランティアセンター 電話 045-802-2150 まで

部会報告

～ 一般部会交流会 ～

一般部会情報交換会を4月17日(火)14時から「ふれあいホーム多目的研修室」で開催しました。初めに、今年度人事異動で赴任された事務局長の富井さんのご挨拶がありました。

新年度にあたってボランティアネットワークの事業計画、今回参加9団体の自己紹介と活動紹介、情報交換という内容で進めました。

花壇の手入れ・清掃を行う「美化ボランティアグループ明るい会」、パソコンを使って脳トレ等を行っている「泉区 PC 友の会」、シニア・障がい者の方への「読み聞かせグループ ひだまり」、老人施設を中心に活動する「傾聴ボランティア・もも」、日本語検定で2級合格者を誕生させた「日本語ボランティア いちよう」、布おもちゃの製作や貸出を行う「いずみ布おもちゃぐるーぷ」、リハビリ・脳トレ・バス旅行と中途障がい者支援を行っている「中田希望会」、AEDなどの救急活動啓発・スキルアップに努めている「泉区赤十字防災ボランティア QQ の会」、初参加の「泉区災害ボランティア連絡会」と、どの団体も高齢化や後継者育成等の様々な課題を抱えながらも、熱い気持ちで前向きに活動していることが共有でき、実りある情報交換会となりました。



最後に活動を多くの皆様に知っていただくために来年3月7日に開催する「ボランティアフォーラム」への参加と掲示用グループ紹介の作成依頼(A3サイズ)、そして災害発生時の地域だけではなく災害ボランティアセンターでの活動をお願いしました。

来年度の交流会は、令和2年4月14日(火)14時からを予定しております。今後の活動予定に入れていただき、是非ともご参加くださるよう宜しくお願いいたします。(榊原博芳)

～子育て支援部会交流会～

今年の子育て支援部会では、5月15日(水)10～12時、ふれあいホーム多目的研修室で、例年のように各団体から参加希望を受け開催しました。参加者7名と少なかったのは、子育てサロンと重なった水曜日が原因と反省し今後は再考します。

今回の作品は、百円ショップで誰でも簡単に入手出来る「組み立てカー」です。「組み立てカー」以外に、ヘリコプター、バイク等のシリーズも用意されていて、現時点で多数の注文発注にも対応してもらえます。

工作開始前に、ボラ・ネット中嶋会長挨拶で始まり、社協から「令和元年度事業計画について」の説明に続いて、参加団体の自己紹介を含めた意見交換を行い、いよいよ作品の個装箱に図で示された説明書を基に、事前に組んで完成されたサンプルを見ながら組立開始です。開始後まもなく10～15分ほどで、皆簡単に完成出来ました。

作品が簡単に組み上がったことで予定した時間に余裕が生まれ、再び意見交換等をしようとなり、あるグループが持参した中から、薄い紙状のスチロールに描かれた鳥の形に切り取った物が、手で飛ばすと面白いように上手く飛ぶのが披露された。参加者の間でも飛行を実演出来て、そのひらりと飛ぶ様子に感動しました。続いて、封筒の上の口から出た紙片を動かすと、封筒のお腹部のアンパンマンが、表情を変える緻密な構造にも感心しました。

このように楽しくお互いに意見交換できるイベントを今後も継続したいと、改めて考えさせられました。(佃 正美)

第9回 泉区 親と子のコンサート

- ・開催日時：2019年9月23日(祝)午前10時30分～11時30分
- ・会場：泉区民文化センターテアトルフォンテ ・入場料：300円(全自由席)
- ・出演：メロディークレール(歌)／パーカッショングループ“リトルサニー”(打楽器)

団体活動紹介

～親と子のいばしょ “ぐりん”～

緑園地区の子育て支援として未就学児とそのご家族が遊んだり、おしゃべりしたり、情報収集したりする場として、平成20年に地域のボランティアが集まり、“ぐりん”を作りました。今年度より、この活動の企画、運営による地域での子育て支援活動を長きに亘り行ってきたスタッフから、新しいスタッフに引き継ぎ、毎月一回午前中の開催という形で新たなスタートを切りました。



“ぐりん”の立ち上げのころはたくさんのご家族が集まっていた場ですが、いずれの地域でもみられるように参加者が少なくなってきました。そのようななかで子育て中のご家族が少しでも出掛けやすい場となるように

- 飲み物を飲みながら、くつろいでおしゃべりができる
- 手遊び、伝承遊び、絵本の読み聞かせなど、親子で楽しんでもらう
- 専門家をお呼びして子育てに役立つ情報を伝えてもらう
- 季節の行事を取り入れいっしょに楽しいひとときを過ごす
- お誕生日をいっしょに祝うなど、工夫を凝らしています。

また、地域の子育て支援関係団体が交流を持ち作り上げる「キッズフェスティバル」も今年で三回目の開催となり、多くの方々に参加していただけるイベントとなりました。“ぐりん”を卒業したご家族とスタッフにとっては再会の機会となり、懐かしくも嬉しい時間となっています。

そして、地域での交流から、専門家やさまざまな分野で活動を行っている方々のお力をお借りして“ぐりん”を開催し、子育て支援の輪を広げ、より良い活動となるよう考えてまいります。
(阿部恵子)

～音楽スペース・おとむすび～

音楽スペース・おとむすびの拠点は、市営地下鉄「中田駅」そばにあります。子供から大人まで高齢者も障がいのある方もみんなが自分らしく音楽を楽しみ、交流できる場を目指して、音楽療法士他スタッフの皆様が中心となって活動されています。



活動内容はコンサートや音楽に関するワークショップなどの単発イベント、常時開催の歌謡曲や唱歌などを一緒に歌い楽しむ歌俱樂部 FUNFUN（第2木曜、第3火曜、第4木曜）、初めての人も参加できるウクレレの会（第1水曜）などがあります。

また、希望者へのスペースの貸し出しや個別対応としての音楽療法の実施、他で活動されている音楽療法士のサポート活動もされているとのこと。音楽スペース・おとむすびのこれからの活動がとても楽しみです。<https://www.otomusubi-yokohama.com/>
(宮森友美)

ボランティアネットワーク 令和元年事業後期計画

運営委員会	毎月第1水曜日 いずみふれあいホーム
親と子のコンサート	9月23日(月祝) 泉区民文化センターテアトルフォンテ
高齢者支援部会	10月10日(木) いずみふれあいホーム
障がい者支援部会	10月18日(金) いずみふれあいホーム
泉区民ふれあい祭り	11月3日(日) 和泉遊水地
泉区社会福祉大会開催協力	2月下旬予定
ボランティアフォーラム	2020年3月7日(土) いずみふれあいホーム

災害ボランティア連絡会

～地区社協と災害ボランティアセンターの連携は大切です！～

泉区社協の地区社協分科会 6 月度会合に時間をもらい、災害発生時に開設・運営される災害ボランティアセンター（災害 VC）と各地区社協との連携の必要性について話をさせていただきました。



各地区社協では、平常時でも「困りごと」対応で苦勞されていますが、災害時には高齢者増加と近隣関係の希薄化などの現状から、災害時に対し非常に脆弱な社会となっており、「困りごと」が一挙に増加します。

また、①福祉避難所の運営、避難所での福祉対応面など福祉支援の不足から災害関連死が増加傾向にあります、②被災地における支援ニーズは、災害 VC 閉鎖後も続いています。

災害 VC に対する支援ニーズの提供先としては、地域防災拠点が主体となりますが、実際には地域福祉の見張り役としての地区社協と地域福祉の実行役の自治会町内会がニーズの提供元となると思います。ついては、災害 VC の平常時体制「区社協と災害ボランティア連絡会」とは、平常時から「顔の見える関係」が大切だ、ということを理解してもらった話し合いでした。

災害 VC の運営主体の区社協の役割や期待に対する意見質疑などがありました。当分科会は、2 か月に 1 回開催され、区内 12 の地区社協の会長、役員、区社協からは、大貫会長、富井事務局長、遠藤主任が参加されました。（江尻哲二）

編集後記

風鈴や 花にはつらき 風ながら 与謝蕪村

■これから本格的な夏に向かう時期だ。今年は何年かぶりに江戸風鈴を買って吊るしてみた。「チリリーン」という爽やかな音色に心が癒される。この7月、江戸時代から続く伝統工芸「釣りしのぶ」を作った60年という東京マイスター（東京都優秀技能者）深野晃正さんとお会いする機会があった。「萬園」の屋号を持ち親の代から続く2代目だ。デパートの展示会場には舟や井形などさまざまな形をした「釣りしのぶ」がずらり並んで夏の風物詩を演出していた。ヤマゴケを巻き付けた竹材にシダ植物の一種シノブの花茎をからませた観賞植物。江戸時代に、庭師がお中元用に作ったのが発祥とされている。この日、熱心に見入る若者に丁寧に質問に答える深野さん。実は美術・工芸の大学で講師を務める先生でもある。暫し江戸情緒を味わうことができた。

■富井事務局長は昭和 35 年 4 月、長野県下水内郡旧永田村に転居。唱歌「故郷」（ふるさと）を生んだ土地で、子供のころは歌詞そのものの生活だったとか。「兎追いし かの山 小鮒釣りし かの川」。ところで、3番はこういう言葉になっている。「山は青き故郷 水は清き故郷」。富井さんには、かの故郷を思い出しては泉区で「共に歩み、ともに支え合う」が私たちの願い。ご指導よろしくお願ひいたします。（宮田貞夫）

編集委員

発行責任者：中嶋光代 広報委員長：宮田貞夫
 広報委員：歌川優子、江尻哲二、金川一之、山内道子、泉区ボランティアセンター

■泉区ボランティアネットワークへの問い合わせ・加入申込み■

泉区ボランティアセンター（泉区和泉中央南 5-4-13 泉区社会福祉協議会内）
 電話：045-802-2150 FAX：045-804-6042
 E-mail：izumiku01@yokohamashakyo.jp
 泉区ボランティアネットワークHP：http://network.shakyo-iy.or.jp/